



まなびの杜



仙台まちづくり若者ラボ Bチーム

加藤・岡田・神尾・若原・千葉・中村・稲葉

目次

メンバー紹介

テーマ設定までの経緯

フィールドワーク① HELLO, VISITS東北大学

フィールドワーク② 仙台市民図書館

フィールドワーク③ 宮城県教育庁 高校教育課

フィールドワークから見えてきたもの

アンケート概要/結果

アンケートまとめ

考察と提言

アクション案

今後の取り組み



稲葉 福音 (18歳)
宮城県出身
学生

教育の面から仙台について
考えてみたいと思い参加！

岡田 雅文 (27歳)
群馬県出身
会計事務所 職員

仕事をきっかけに仙台へ！



メンバー紹介



神尾 真大郎 (26歳)
茨城県出身
(一社)IMPACT Foundation Japan

仙台をもっと深く知りたい・学びたい！

若原 大志 (25歳)
滋賀県出身
株式会社みちのく仙台FC

今年4月に仙台へ。
仙台についてもっと知りたい！



千葉 優花 (21歳)
宮城県出身
学生

まちづくりに興味を持ち
参加しました！

加藤 海 (32歳)
山形県出身
住友商事東北株式会社

多種多様な若者の意見・考えに
触れられてとても刺激になります！

中村 天海 (20歳)
福島県出身
学生

仙台をより好きになりたい！



高校生の『**学びのサードプレイス**』のあり方を考える！

テーマ設定までの経緯

☑ 中高生の学びのサードプレイス（学校や自宅、塾でもない場）が不足しているのではないか（学校や街の図書館も席が埋まっており、落ち着いて勉強できる環境や塾に通える経済的余裕のない中高生もいるだろう）。

→ [自習室軸] 誰もが安心して学べる”学びの場”の存在が必要ではないか？
(⇒HELLO, VISITS東北大学、仙台市民図書館にフィールドワーク)

☑ 大学や専門学校へ進学すると、今後自分が何をやっていこうか限定されてしまう（学部、美容やスポーツなどの領域）。

→ [キャリア軸] 高校生のときから「キャリア」について考えられる”学びの場”を創ることはできないか？

(⇒宮城県 教育庁 高校教育課にフィールドワーク)

フィールドワーク①：HELLO, VISITS東北大学 [自習室軸]

仮説

☑ HELLO, VISITSとは？

優秀な人材を企業に斡旋する代わりに大学生に向けて無料自習室を提供している会社。

⇒このビジネスモデルを高校生向けに展開できないのか？

結果

☑ HELLO, VISITSはNPOから始まっており、ビジネスというよりもボランティア的側面が強いためユーザー層を広げるのは難しそう。

☑ 現状、大学生ユーザーでいっぱいなため、空きスペースの活用も難しそう。

⇒**民間で自習室不足を解決するのは難しい？**



フィールドワーク②：仙台市民図書館 [自習室軸]



仮説

☑ 現在も多数の高校生が図書館を勉強の場として利用

⇒図書館を高校生の『**学びの場(=勉強の場)**』として、より積極的に活用できないか？

結果

- ☑ 図書館は全世代のための施設
- ☑ 図書館は読書を楽しむ「場」
- ☑ 閲覧席は、勉強のための「場」ではない

⇒図書館を高校生の『**学びの場(=勉強の場)**』として、みるのは困難。
(そもそも、勉強のための「場」ではない。)



フィールドワーク③：宮城県教育庁 高校教育課 [キャリア軸]

仮説

☑ 高校生はキャリアについて学ぶ機会が少ないのではないか

⇒やりたい事や自分の適性を**知る機会**が不足？

⇒就職に関わる情報への**アクセスする機会**が不足？

結果

☑ 教育現場の課題の一つは進学実績に偏った「出口戦略」になっていること

⇒**将来を見据え「夢や目標」を持たせられるキャリア教育が必要**

☑ 小学校～大学のキャリア教育の管轄/方針が異なり、ぶつ切りのケースも

⇒キャリア教育は小学校～大学まで**発達に合わせ時間をかけて**積み上げるべき



フィールドワークから見たもの

高校生の「学びのサードプレイス」のあり方とは？

⇒場・機会の作り手のお話を聞いてみよう！

フィールドワーク①：無料・長時間使える自習室を民間で用意するのは難しそう。

フィールドワーク②：図書館を学びのサードプレイスとして活用していくのは難しそう。
(そもそも設置目的が違う)

フィールドワーク③：将来を見据え「夢や目標」を持たせられるキャリア教育が必要

学校でも家（塾）でもない高校生のための「学びのサードプレイス」となりうる場はあまりない？
社会の側には、キャリアに対する学びにニーズがある。

⇒ 受益者のニーズを聞いてみよう！（⇒高校生アンケートの実施）

アンケート概要

[調査概要]

仙台市における高校生の「学びのサードプレイス」のあり方を考えるための

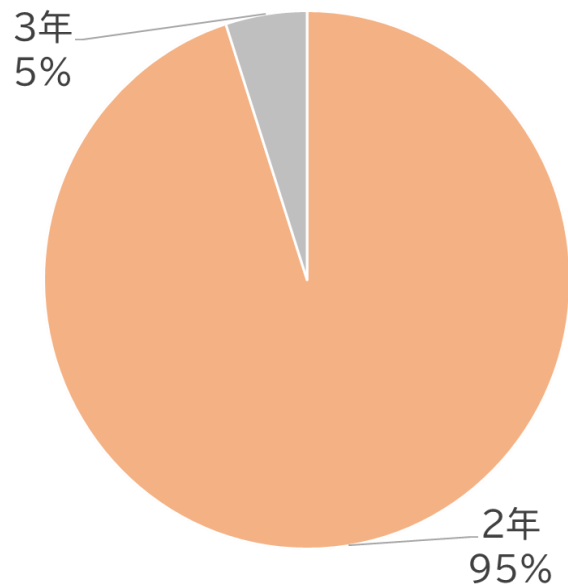
アンケート調査

[調査対象]

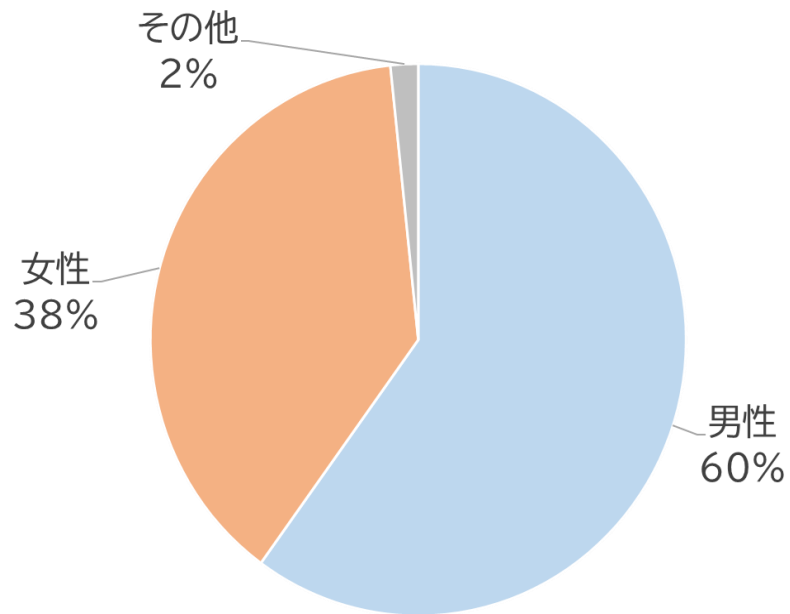
- ・ 仙台市内の高校に通う高校生
- ・ 仙台市内に居住する高校生

アンケート結果（有効回答数：60）

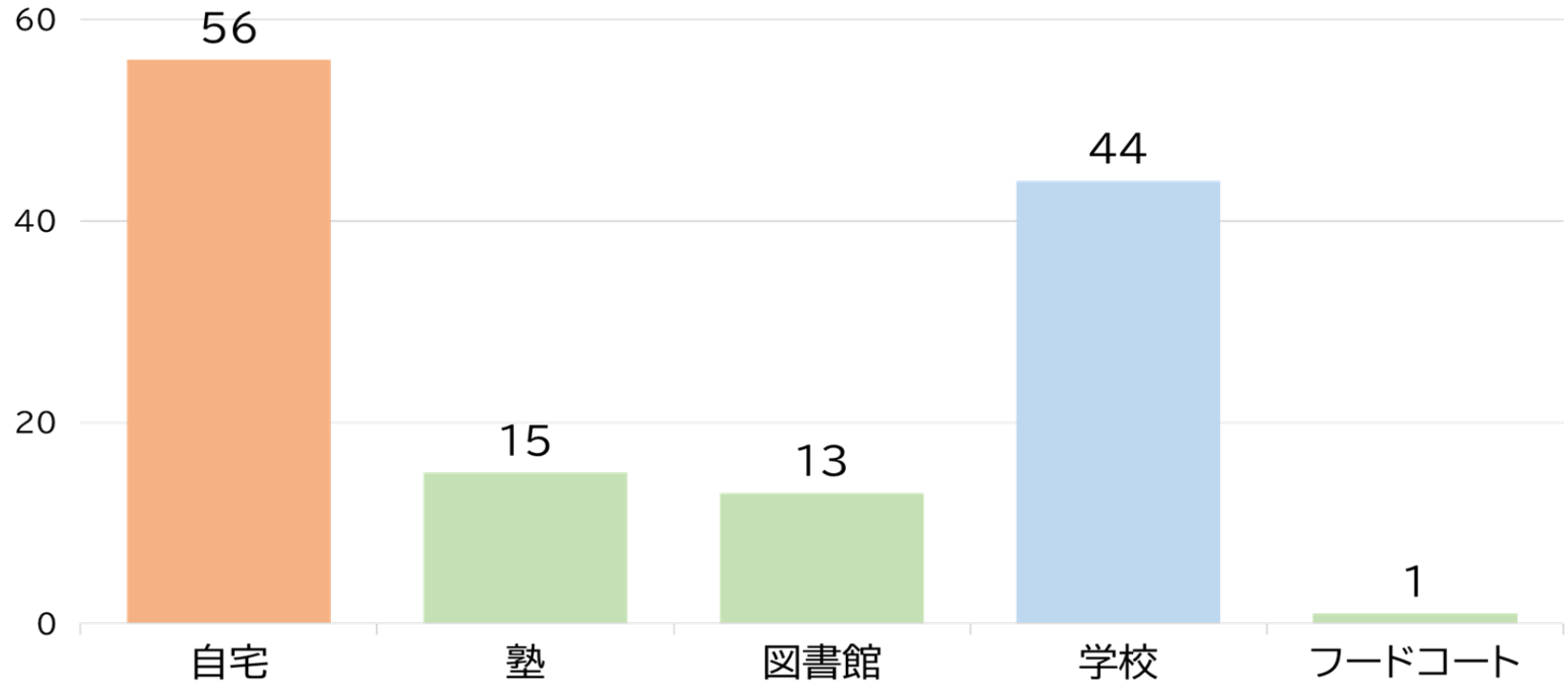
学年



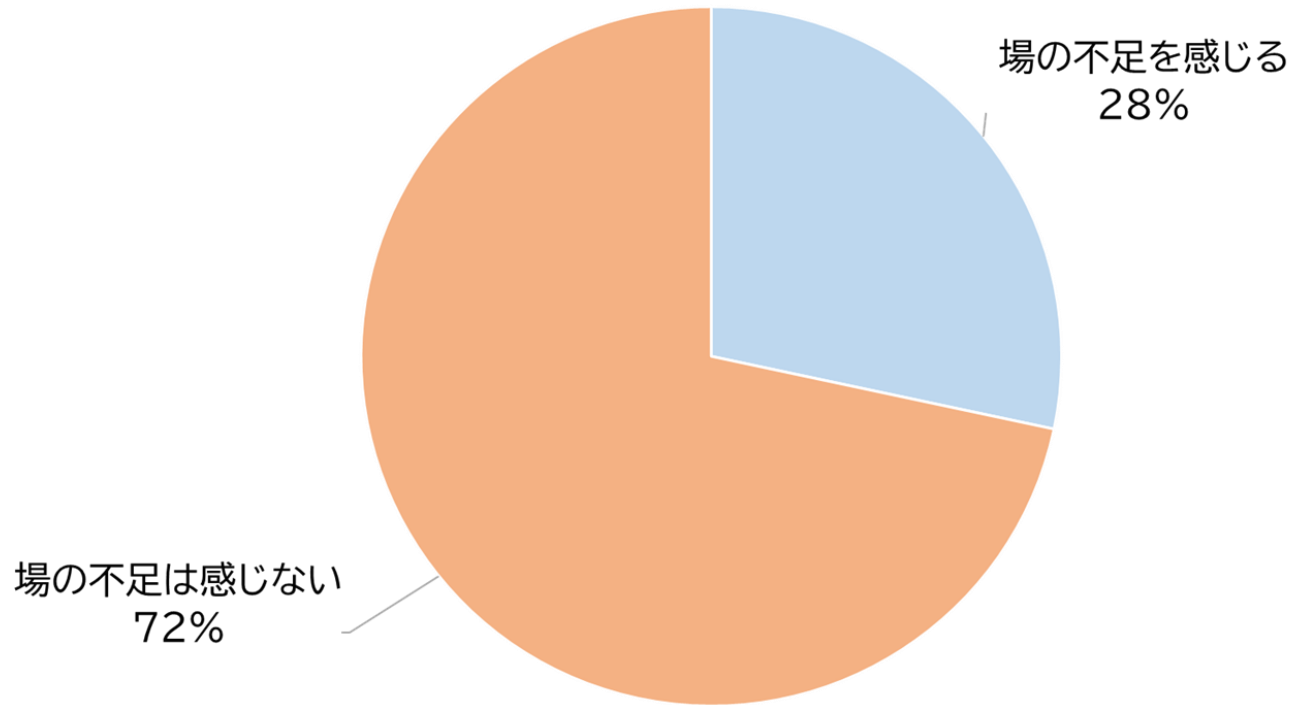
性別



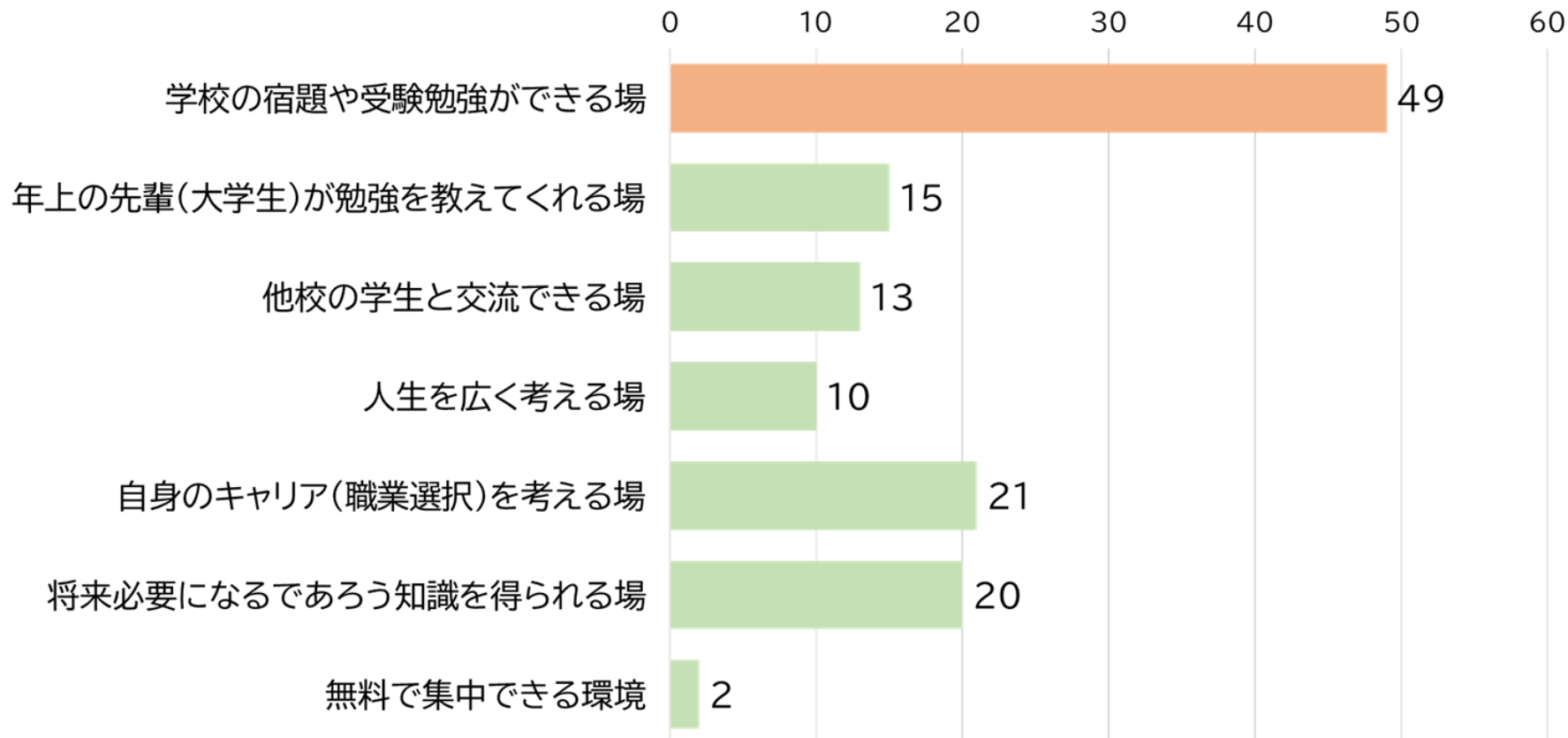
学びの環境(複数回答)



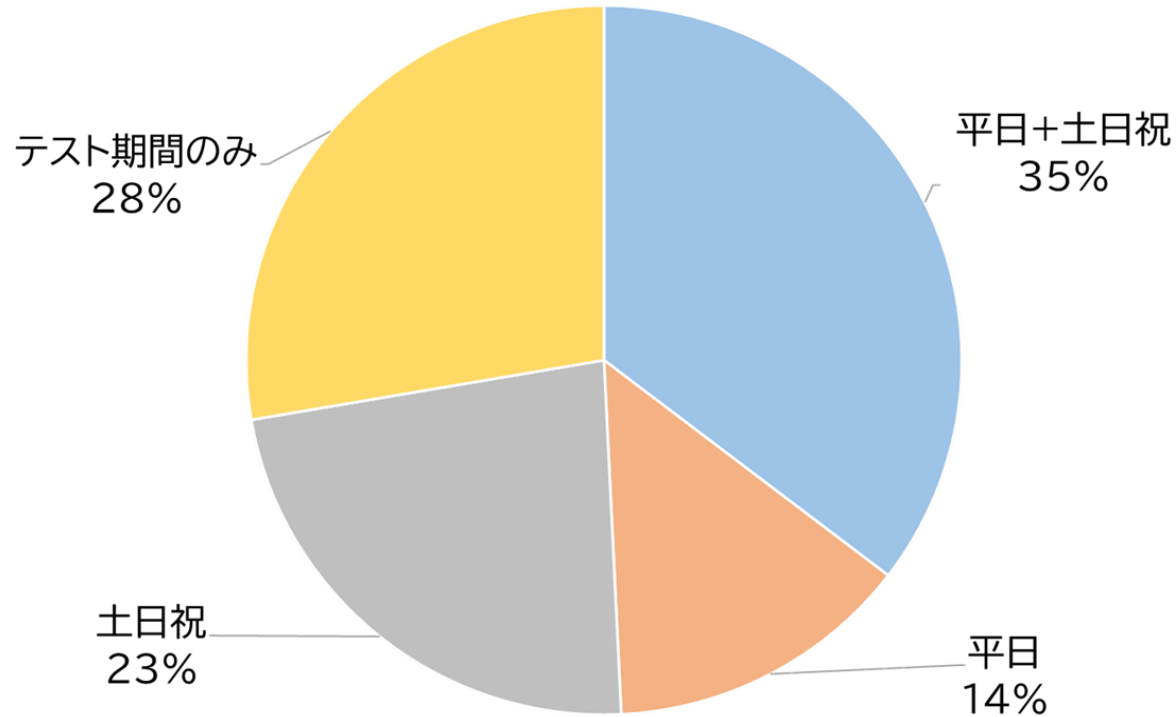
学びの場の不足



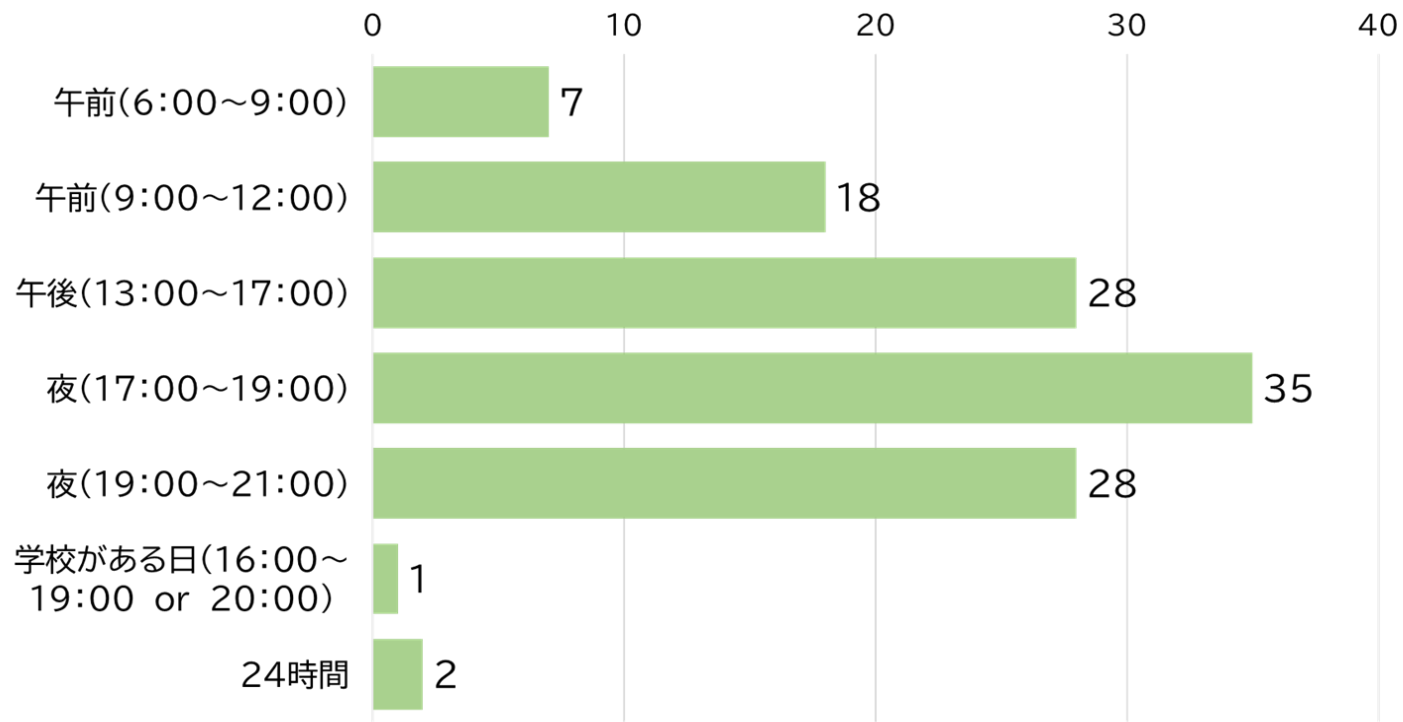
どんな「学びのサードプレイス」があれば行きたいと思うか



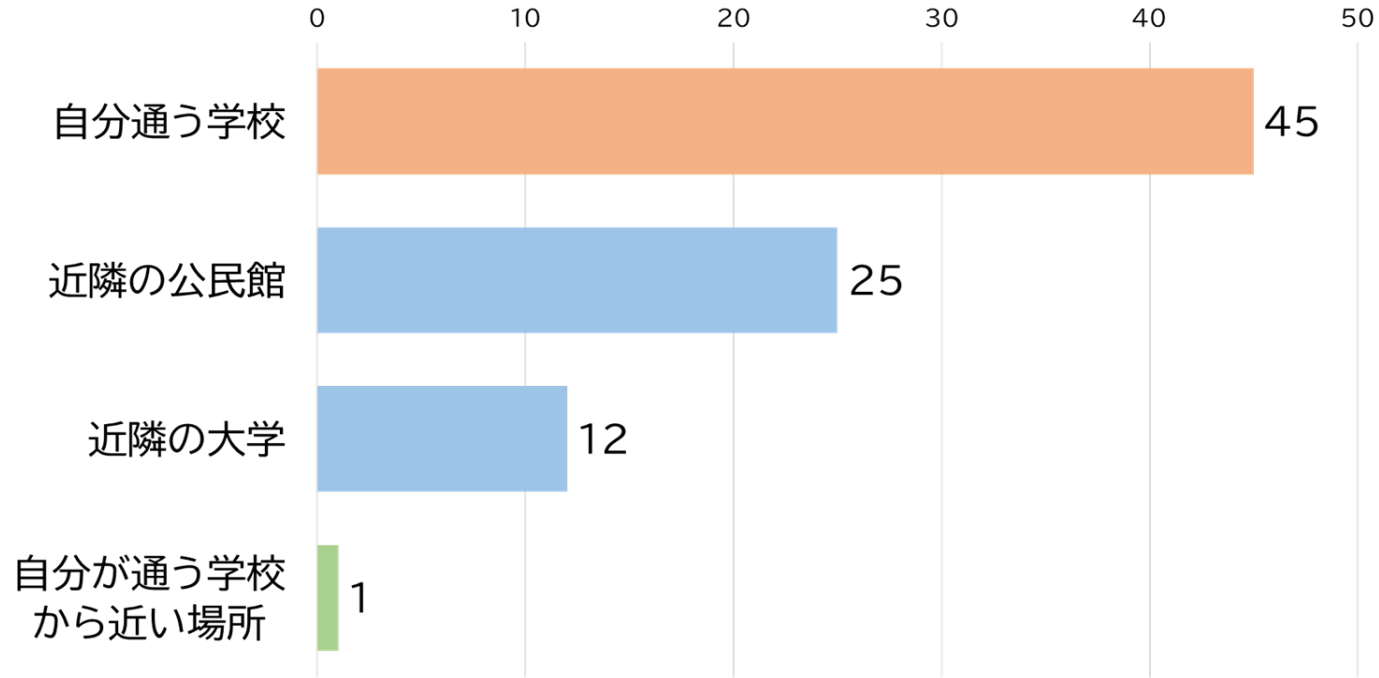
サードプレイスに求める条件①:利用時期



学びのサードプレイスに求める条件②:利用可能時間



学びのサードプレイスに求める条件③：設置場所



アンケートまとめ

1. 自宅と学校を学びの場とする高校生が多い

→学びの場に対する不満や不足を感じている高校生は少ない。

→しかし、**一定数(3割)の高校生は場の不足を感じている**

2. 学びの場の活用用途は「課題や受験勉強のため」が多い

→一方で、自身のキャリアに関する学びにも一定の関心あり

→高校卒業時まで**「大学(学部)選択」「キャリア(仕事・人生)」について学ぶ機会**の必要性

考察と提言

☑ 現在活用している学びの場の環境整備 (学びの場のさらなる環境整備)

→ 「ついで活用」 できる場、新たな学びの場を創る

☑ 高校時に「大学(学部)選択」「キャリア(仕事・人生)」を学ぶ機会が必要

→ 自分の将来に興味・関心をもつきっかけづくりが必要



入口は「勉強/自習」であっても「キャリア」を考えられる"学びの場"を創る！

アクション案

入口は「勉強/自習」であっても「キャリア」を考えられる"学びの場"を創る！

	アクションプラン	ターゲット	場所	アクティビティ/ サポーター
1	【今ある自習室】 × 【キャリアの学び】	自習スペースを活用する 高校生	・学校の自習室 ・図書館等の自習室	<input checked="" type="checkbox"/> 基本は自習スペース として解放 <input checked="" type="checkbox"/> 大学生ボランティア に学習相談が可能
2	【移動型自習室】 × 【キャリアの学び】	固定の自習スペースを 持たない高校生	・市民センター ・大学	<input checked="" type="checkbox"/> 休憩時間を活用して キャリアについて考える ワークショップや座談会 の実施

今後の取り組み

☑ 開催場所の調査、深掘り

→ 高校、大学、市民センターへのヒアリングの実施

☑ アクティビティ/サポーターの深掘り、協力依頼

→ 「キャリアを考える」に最適なアクティビティの検討

→ 教育学部生、ボランティアサークルへの協力依頼

☑ 持続的な開催の仕組みの検討

→ 実施主体、経済性の検討



ご清聴ありがとうございました！

